

J C用語

組織用語

① J C

JUNIOR CHAMBERの頭文字をとったもので組織としての青年会議所の意。

② JAYCEE

青年会議所会員個々人のこと。

③ J C I

JUNIOR CHAMBER INTERNATIONALの頭文字をとったもので、国際青年会議所の意。各国青年会議所の連絡・統合・調整機関であり、本部はアメリカ・ミズーリ州セントルイスにある。

④ N O M

NATIONAL ORGANIZATION MEMBERの頭文字をとったもので、国家青年会議所の意。例えば、日本青年会議所は、国際青年会議所の中の1 N O M（国家青年会議所）である。

⑤ L O M

LOCAL ORGANIZATION MEMBERの頭文字をとったもので、国家青年会議所の中に属する各地青年会議所の意。

⑥ 地区協議会

日本青年会議所としての事業計画・方針などを各ブロック並びに各地青年会議所に伝達浸透させ、また一方では、各地青年会議所の事業活動・意見などを日本青年会議所に報告連絡するための機関である。

現在、日本青年会議所は10区分されており、10の地区協議会があり、主な事業としては、各地区会員大会の主催がある。

⑦ ブロック協議会

日本青年会議所並びに地区協議会としての事業計画・方針などを各地青年会議所に伝達浸透させ、また一方では各地青年会議所の事業活動・意見などを、日本青年会議所並びに地区協議会に報告連絡するための機関である。

現在、日本青年会議所には47ブロック協議会があり、主な事業としては、各ブロック会員大会の主催がある。

⑧ J Cデー

日本において最初に青年会議所運動が開始された1949年9月3日を記念して、毎年9月3日をJ Cデーと称している。

⑨ 認証証伝達式

新規に設立を承認されたJ Cに対し、日本J Cからその認証証が正式に伝達される時の

式典である。

⑩スポンサー J C

青年会議所未設立の地域の青年有志に働きかけ、設立を指導援護する青年会議所のこと。

⑪シスター J C

国際青年会議所に加盟している国家青年会議所に属する青年会議所の相互間の親善と友好のために、相互の交流を行う締結関係を結んだ青年会議所のこと、姉妹 J Cともいう。

⑫世界会議（ワールドコンGRESS）

国際青年会議所が主催する年1回開催される世界会議のことで、国際青年会議所の事業計画・予算の決定・役員選出・褒賞の授与、翌年度の開催地の決定などが行われる J C I の最高意思決定機関である。開催地は毎年異なるが、開催中には総会・理事会・常任理事会・分科会・視察ナショナルパーティー・アワードバンケットなどがプログラムされている。第1回 J C I 世界会議は1946年パナマで開催された。

⑬エリアコンファレンス

国際青年会議所は世界の加盟 NOM を地域別に4つに分けている。アフリカ・中東地域、アジア・太平洋地域、アメリカ地域、ヨーロッパ地域の各地域で年1回5月から6月に行われる国際会議をエリアコンファレンスと呼び、アジア・太平洋地域のエリアコンファレンスは、ASPAC（アジア太平洋地域コンファレンス—ASIA PACIFIC AREA CONFERENCE）という名で親しまれている。

⑭APDC（Asia Pacific Development Council）

アジア太平洋開発協議会

⑮直前会頭・直前理事長

単年度制をとっている J C では、日本青年会議所前年度会頭を直前会頭、LOM の前年度理事長を直前理事長と称している。地区・ブロックでは、直前会長と呼ぶ。

⑯セネター制度（SENATOR）

J C 終身名誉会員制度のことで、J C I 運動に多大なる貢献をした会員を L O M が承認・推薦し、NOM 並びに J C I の承認を得てその資格（終身番号）が与えられる。与えられた終身番号は、会員の死後も永久に残るという名誉ある資格である。

⑰出向者

各地青年会議所より国際青年会議所・日本青年会議所・地区協議会・ブロック協議会へ役員や委員として出ていく会員のこと。

⑱セミナー

講師の指導のもとに参加者が集って、討議して進める共同研究のことで、ゼミナールともいう。

⑲シンポジウム

語源はギリシャ語といわれ、親しい者同志がなごやかに食事をする意である。ある大きなテーマを中心に多くの報告者によって各々の立場から関連したことが講演形式によって述べられる。この特徴は、討論のないことと、あらゆる立場からテーマについて浮き彫りにされるということである。討論は行われないが、各報告に対する質問は許される。

会議に関する用語

①パネルディスカッション

パネリストによる密度の高い座談会議である。多くの者が全員討議するかわりに数名のメンバーを選んでそのメンバー間で自由に討論してもらう形式である。

②バズセッション

討論方法である。まず皆が発言できるような小グループに分け、ここで個人個人の意見を自由に表現させ、その意見を調整し、持ちより、全員参加の総会を開く。即ち全員に発言を許し、会議の討論に貢献させる方便として考えられた。この小グループによる話し合いの過程をバズセッションという。

③ブレインストーミング

皆が集まって、あらかじめ議題を定めず、何人にも拘束されずに自由に自己の創造的アイデアを思いつくままに出していき、集団の集中的ディスカッションによって良い考えを発見・発展させようとする方法。(集団的創造力開発の方法)

④フィリップ66方式

バズ形式に似たもので、多人数の場合小グループ(6人)に分け、6分間という時間を定めて短時間に集中的に各グループが会議を行う方式のこと。66式討議ともいう。

⑤KJ法

川喜田二郎氏によって開発された創造力開発の手法。紙切れ法とも呼ばれ、本調査に関連があるか否かの判断をしないで、ひたすら情報をカード化し、その後、ある一定の方法でこれを組み立てて判断するという手法。例えば、グループごとに話し合い、全体会議で発表してまとめていく。

⑥ロバート議事法

ロバート・ルールズ・オブ・オーダー。「多数者の権利」・「少数者の権利」・「個人の権利」・「不在者の権利」の4つの権利と、「一時一件の原則」・「一時不再議の原則」・「多数決の原則」・「定足数の原則」の4つの原則を基本的なルールとして行う会議運営の方法。これは国連をはじめ、世界各国で採用され、青年会議所でも正式に採用されている。

⑦コーディネーター

会議の際に、それまで出された意見を集約・調整し、会議を進行させる担当者。

⑧アドバイザー

パネルディスカッションなどの討議会の時に、会議を進行させるために助言を行う講師。

⑩パネリスト

パネルディスカッションを行う時に、各分野から出席する数名の意見発表者のこと。

事業・運営用語

①CD

コミュニティー・ディベロップメントの略で社会開発のこと。

②LD

リーダーシップ・ディベロップメントの略で指導力開発のこと。

③MD

マネージメント・ディベロップメントの略で経営開発のこと。

④カテゴリー

本来の意味は、同一性質のものが属する部類を指すが、国際青年会議所では、重点事業の項目のことをいう。

⑤チャーターメンバー

各地青年会議所が設立された時に入会した初代会員の呼称。

⑥アテンダンス

総会・例会・各会合に出席することをいう。

⑦エントリー

褒賞獲得・大会誘致等のために立候補申請することをいう。又は出向者の推薦並びに登録のことを指す。

⑧アジェンダ

理事会や委員会等を運営する時の式次第のこと。

⑨マニュアル

手引き書のこと。

⑩人間力大賞

各地で、様々な分野で、素晴らしい考え方をもちそれを実践し、まちの地球市民として活動を続けている将来性のある若者（TOYP＝傑出した若者）の功績を称え、その運動を広く紹介すると共に、そこから学ぶことを目的としている。

⑪褒賞

青年会議所運動を通じて地域に貢献した会員会議所を称え、その榮譽を全国に発信すると共に、各地会員会議所がこれらの事業を参考として新たな気づきや学びを得る機会とし、関わるすべての人に自信や誇りを与え、会員のモチベーションや未来の青年会議所

運動の発展に資することを目的に褒賞制度を設けている。